

サポート通信



特別支援教育センター校からの情報発信ネットワーク

発行者 広島市立広島特別支援学校地域支援部 広島市南区出島4丁目1-1 TEL 代表 (082)250-7101

取組

コグトレで「聞く力」をUP！

楽しく聴覚ワーキングメモリを伸ばし就労に必要な力を付ける実践

本校高等部3学年の一般企業に就職希望の生徒が所属する一学級での取組です。認知機能トレーニングを利用して「聞く力」を高める取組を昨年度から継続して行っています。本校では高等部第2学年から職場体験実習が行われています。引率の教師は生徒が職場実習先で音声言語での指示を聞き逃すという場面に出くわして、実習をスムーズに進めるために「聞く力」の必要性を感じ、それを向上させる手立てを考えました。本校に外部支援として来ていただいている作業療法士の宮口英樹先生（広島大学大学院教授）に相談し、先生のアドバイスで認知機能トレーニングの「聞く力」を付ける課題「最初とポン」「最後とポン」に取り組み始めることにしました。

【最初とポン】

「最初とポン」は、出題者が一文読み上げる中で、生徒が最初の単語だけを聞いて覚えて書く、ただし途中、動物の名前（テキストによっては果物など）が出てきたら手をたたくという課題です。「最後とポン」は読み上げられた文章最後の単語を書き、後は同様です。

（例）去年の冬に森の中でサルに出会いました。

去年

サル

去年



（テキストにある本来の出題方法を生徒の実態に合わせて少し簡単にしています。）「手をたたく」という干渉課題が入っているということで、より集中して聞いて覚える必要があります。このトレーニングは聴覚ワーキングメモリを強める効果があり、人の話を注意集中してしっかり聞く力が付いてきます。

二つの課題で各9問ずつ、週に2~3回3か月程度継続したところで、ほとんどの生徒が8割程度正解するようになりました。この課題に取り組んでいるとき、教室は水を打ったように静かになります。生徒の「正確に聞き取り、就労につなげたい。」という思いが感じられ、その真剣さに圧倒されます。現在では問題をアレンジしたり、発展させたりしています。読み上げ文を職場での指示文にしたり、仕事に関わる内容にしたりして、「何を指示されたか」あるいは「上司が話した内容は何だったか」など、聞き取ったことをフィードバックして答える問題を加えています。職場では毎日、音声言語による上司の指示を理解しスピーディに行動することや、接客でお客様の質問を聞き取って同僚や上司に伝えるなどの対応が求められます。トレーニングで得た力が実習の現場や就労先で発揮されることを願っています。

本に紹介されているプログラムどおりに取り組むことが難しい場合もあると思います。付けたい力を考え、それに応じてトレーニングをピックアップして取り組むことができます。コグトレは学習の土台となる力や生活をする上で必要な力を付けるための有効的手段です。

<参考文献>

- 「1日5分！教室で使えるコグトレ 困っている子供を支援する認知トレーニング122」 東洋館出版社
- 「コグトレ みる・きく・創造するための認知強化トレーニング」 三輪書店



紹介

「iPadを文房具として使おう」

ちょっとした工夫でできることを増やそう！

身近にあるスマホやタブレットにある機能を使って、いろいろなことができます。今号では、iOSに標準搭載されている機能を使って今すぐに使える方法を御紹介します。子どもが困難に感じていることがあれば、活動や場面に応じて、iPadを文房具として活用しましょう！

読み上げさせてダイレクトに内容を理解する

- ・すらすら読めない
- ・漢字が分からない
- ・どこを読んでいるのか分からなくなる

メールの内容を読み上げさせよう！

調べたことを読み上げて聞いてみたらよかったです！

「読むこと」に困っていたら…

●読み上げコンテンツを利用する

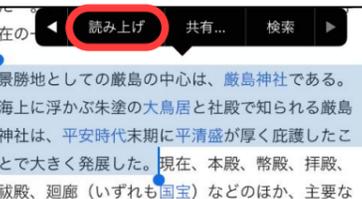
文字や文章の読みづらさがある場合、文章を読むのに時間が掛かる場合には、音声読み上げによって文章を音声で理解できます。

設定 → アクセシビリティ → 読み上げコンテンツ

●『選択項目の読み上げ』をON



インターネット上の文章を選択し、音声で読み上げさせることができます。



●『画面の読み上げ』をON

画面上から二本指でスワイプ

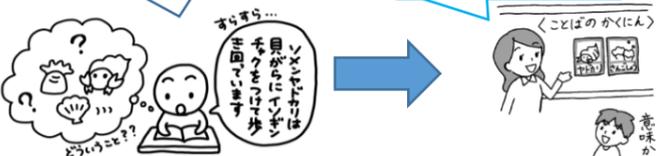
メールやLINEも読み上げできる



イメージしやすい方法で検索する

読んでも意味が繋がらない…

画像だと、イメージがつかみやすいよ！



言葉の意味を理解するのが難しいなら…

●ウェブ・画像・動画から検索

言葉の意味を調べる際、文字だけでなく画像や映像を見ると言葉のイメージをもちやすくなります。



●メモ

調べたい言葉を範囲選択して、すぐに調べることができます。



「メモ」に言葉を入力 → 範囲選択 → 「調べる」をタップ

「画面の読み上げ」で読み上げもできる(左欄下参照)

文字や文章を書くことに困難がある場合は、入力の方法があります。子どもに合った入力方法を選びましょう。

●物理キーボード

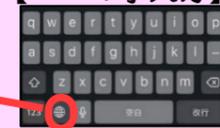


●スクリーンキーボード

長押しするとキーボードの切り替えができます。



【ローマ字入力】



【50音入力】



【フリック入力】



【音声入力】



入力だと日記、作文がスムーズに書ける！

書くより『撮る』、書くより『録る』 紙だけがノートじゃない

メモしたいけど難しいな…

ノートテイクが間に合わない…

書く負担が減って聞くことに集中できる！あとから復習できる！

「書くこと」に困っていたら…

●録音する、画像として記録する、画像に入力する

文字や話をうまく覚えられない場合、書き取りが難しい場合に録音や撮影することで情報を残すことができ、書くことや記憶することを補うことができます。

●撮影アプリ カメラ



メモしたいことを撮影し、データで残して活用できます。調べたことをスクリーンショットで記録することもできます。

画像をプリントアウトして、ノートに貼付する。

ワークブックやプリントを撮影して、画像に入力する。



●文字入力

「編集」 → 「マークアップ」 → 「テキスト」で文字入力ができる

書く負担が減って課題に取り組みやすくなった！課題が出せた！

●録音アプリ ボイスメモ



後からじっくり聞き直せる！繰り返し聞ける！



「つまずき」の原因となっている感覚を、バランスよく育てていく

「姿勢が悪い。」「落ち着きがない。」「身体の動きがぎこちない。」「整理整頓が苦手。」みなさんの学級には、このような気になる子はいませんか？

わたしたちは普段から五感といわれる「視覚」「聴覚」「嗅覚」「味覚」「触覚」などに加えて、体のバランスをとるときに使う「平衡感覚」、身体の動きをコントロールするときを使う「固有感覚」などの感覚を調整しながら過ごしています。例えば、牛乳パックからストローで牛乳を飲むという1つの行動においても、牛乳パックを握りつぶさないように、そして落とさないよう力を加減して持つこと、牛乳パックの重さから残りの量を把握すること、ストローの先をちょうど口の位置へ持ってくることなど、これらの動作をほとんど意識することなく行っていますが、これらは特に、三つの感覚「触覚」、「平衡感覚」、「固有感覚」が適切に働いているからできることです。

しかし、これらの感覚は周囲から見ても認識しにくく、それらの感覚のアンバランスさを抱える人の大変さはなかなか理解されていません。例えば、「触覚」が鈍感なために、腕に歯形を付けるほど強く噛むなど、自傷的な行動をする子、「平衡感覚」が敏感で、動く遊具が嫌い、怖いと感じる子、「固有感覚」が鈍感で、力加減が調整できず動作が乱暴に見える子など、感覚のアンバランスさからさまざまな課題のある子がいます。下記の遊びは、新聞紙の特性を生かした、細かな動きの調整力を身に付けることのできる例です。固有感覚が鈍感、平衡感覚が敏感・鈍感、触覚が敏感・鈍感な子におすすめです。



新聞突進ゲーム

ピンと張った新聞紙に向かって勢いよく突進して身体で新聞紙を破ります「痛覚鈍磨」の軽減の効果が見込めます。



新聞紙リレー

真ん中に大きな穴を開けた新聞紙を頭から通し、膝のあたりまで下ろして片足ずつ抜き、隣の人に渡してリレーしていきます。



新聞紙電車

真ん中に大きな穴を開けた新聞紙の穴の部分に一人が入り、その前後を二人で持ち、電車のように連なってゴールまで進みます。



この本は、子どもたちのつまずきの理由を「感覚」に着目して分析し、それぞれの子どもたちに合った遊び（継続して行えるもの）が多く紹介されています。目的を明確にしたトレーニングを遊びやゲームで楽しみながら行う中で、子どもが感じた「できた！」という達成感が自信になります。「面白そう。」「やってみたい。」という遊びを試す中で、新たな子どもの姿を観察してみませんか？

編集
後記

前期に予定されていた行事が精選、工夫され、感染防止対策のもと、この秋、各学校で運動会や宿泊活動などの行事が実施されていることと思います。今年度の折り返し点を過ぎ、子どもたちの成長を振り返ったり、つまずきに応じた支援を考え直し、新たな取組につなげておられたりする先生が多くいらっしゃると思います。今号で取り上げた「コグトレの取組」、「iPadの活用」、「感覚統合遊び」がそんな先生方の「やってみよう。」という気持ちにつながれば幸いです。